

令和5年度 「森の子学校」体験活動事業報告書

1 事業概要

担当：沼野

(1) 趣 旨

県内の小中学校を対象に、学習指導要領に対応した事前学習、直接体験、事後学習からなる森林ESDに基づく森林・林業教育プログラムを実施し、次世代を担う子どもたちの森林・林業への理解を深めるとともに体験活動の充実を図る。

(2) 対 象

大分県内の小中学校及び義務教育学校 15校程度

(3) 実施期日 令和5年 通年

(4) 実施場所 大分県立香々地青少年の家 大分県立九重青少年の家

(5) 事業内容

(1) 森林・林業教育プログラム検討委員会

専門家による体験学習のフィールド調査を行い、小・中学校教育課程に対応した森林・林業教育プログラムの提供のあり方を検討する。

(2) プログラム実践協力校によるプログラム実践

青少年の家は、STEM教育や環境教育、教科等協力校の教育課程に関連付けた森林・林業教育プログラムを企画・実践し、その成果をまとめる。

(6) 実施校・期日

番号	市町村	学校名	日程	人数	実施施設
1	別府市	別府市立境川小学校	R5.7.11～12	58	九重青少年の家
2	別府市	別府市立別府西中学校	R5.9.6～7	147	九重青少年の家
3	九重町	九重町立野上小学校	R5.9.19～20	23	九重青少年の家
4	国東市	国東市立志成学園	R5.9.25～26	34	香々地青少年の家
5	佐伯市	佐伯市立明治小学校	R5.10.5～6	58	九重青少年の家
6	宇佐市	宇佐市立津房小学校	R5.10.5～6	16	香々地青少年の家
7	由布市	由布市立石城小学校	R5.10.11～12	11	九重青少年の家
8	国東市	国東市立国東小学校	R5.10.12～13	30	香々地青少年の家
9	中津市	中津市立豊田小学校	R5.10.24～25	63	香々地青少年の家
10	中津市	中津市立和田小学校	R5.11.1～2	29	香々地青少年の家
11	豊後高田市	豊後高田市立草地小学校	R5.11.7～8	13	香々地青少年の家
12	豊後高田市	豊後高田市立香々地中学校	R5.11.10	16	香々地青少年の家
13	別府市	別府市立鶴見小学校	R5.11.17	69	九重青少年の家
14	中津市	中津市立市立大幡小学校	R5.11.30～12.1	113	香々地青少年の家
15	豊後高田市	豊後高田市立呉崎小学校	R5.12.14	12	香々地青少年の家

実施校 15校

参加者 計692人

(7) 本年度実施プログラム (15プログラム 別紙参照)

(8) アンケート結果

「森の子学校」体験活動推進事業 森林・林業に関するアンケート項目と結果

	1. 森について興味がある	2. 林業について興味がある	3. 森林の環境問題に興味がある	4. 大分県の森についてよく知っている	5. 林業(木を育てるサイクル)についてよく知っている	6. 森林の働きについてよく知っている	7. 森林とSDGsのつながりを理解している	8. 森林についてもっと知りたい	9. 林業についてもっと知りたい	10. 森林づくり(ボランティア等)に参加したい	合計
香々地青少年の家 実施校9校 計 九重青少年の家 実施校6校 計											
アンケート回答実数	685	685	685	685	685	685	685	685	685	685	6850
森林・林業に関する質問 6段階評価の3以上の実数	607	549	585	455	465	547	536	608	579	532	5463
肯定的な回答割合	88.6%	80.1%	85.4%	66.4%	67.9%	79.9%	78.2%	88.8%	84.5%	77.7%	79.8%

心に残ったこと (生徒事後アンケートより)

- ・木の切り方がチェーンソーとかだけじゃなく、違う機械も使ってやっているんだなとすごく興味深かったです。
- ・木をノコギリで切ったことです。最初は簡単だと思っていたけどやってみると、とても力が入ることが分かったからです。
- ・SDGsは大事だと思った。砂漠化や、土砂などを防ぐことがら。
- ・今回の学習で、林業は循環産業ということを知り、木を切るには70年かかるということが印象に残りました。
- ・土の勉強で土の生き物が心に残った。土も生きていて、死んでいる土があることがわかった。
- ・森林の木の名前や、葉っぱの見た目や厚さなどでわかるようになった。
- ・バードコールを作って野鳥観察をしたこと。
- ・クラフトで、材料を森に取りに行ったことです。葉っぱのことを知って、探すことができた。
- ・炭作りです。酸素をなくしてもやしたら炭が出来るとことがわかったから。
- ・土の中に目では見えない虫がたくさんいること。
- ・何か物を作る前に、木を切るなど、ものを作るために時間がかかることを知れてよかったし、巣箱作りが楽しかった。

もっと知りたいこと (生徒事後アンケートより)

- ・山の仕事で何が一番大変ですか
- ・タデ原湿原にあるいろいろな植物について。
- ・大分県の森林についてやSDGsの取り組みについてもっと知りたい。
- ・森林のボランティアについて学習したいです。
- ・林業の内容についてもっと詳しく知りたいです。
- ・特殊な機能を持つ植物を知りたい。
- ・森林の働き、森林の環境問題
- ・水ができるまでのことを知りたい。
- ・森林問題や今自然には、どのようなことが起こっているのか
- ・鳥について調べたい
- ・木の育ち方、どうやって葉を实らせるのか

(9) 成果・課題

- 実施校10校→15校 参加子ども数247名→692名と拡大された。
- 学校の要望に応えながら多くのプログラムを提供することができた。(15プログラム)
- 事前アンケート事後アンケートの結果より森林・林業に対する肯定的な評価をした子どもたちが多く見られた。(別資料)
- 講師の対応できる子どもの人数に限りがあることや一人一人の体験を重視する関係で大規模校への対応が難しい、プログラムの開発や講師の人数確保など考えて行く必要がある
- 本年度、1次募集での申請数が5校と少なく2次募集を行った。事前学習、プログラム実施、事後学習、宿泊計画など学校側は負担が大きいと意識しているように感じる。日帰りプログラム実施や1プログラム実施も視野に入れての実施または広報していきたい。
- アンケート実施項目4. 5. 6の項目は、事後アンケートで「知らなかったからもっと学習したい」という思いから低くなる傾向にあるのでアンケート内容もこれから考察していく必要がある。